

以下の ( ) に当てはまる語句を答えよ。

### 概念

気道閉塞により呼吸困難を起こす疾患の総称。主として (① ) と慢性 (② ) を指す。現在、わが国で急速に死亡者数が増加している疾患である。

### 成因

(③ ) が最大の危険因子である。タバコ病といわれるほど肺癌とともに ( ③ ) と関連が深い。(④ 若年・高齢 ) の (⑤ 男性・女性 ) に多い。

### 症状

- ・咳嗽、痰
- ・(⑥ ) 時呼吸困難：階段昇降など体動によって出現し、増強する呼吸困難。
- ・(⑦ 右心・左心 ) 不全：肺毛細血管の破壊により、肺動脈圧が上昇して生じる。肺性心とも呼ばれる。

### 治療

すべての患者に、(⑧ ) 指導、インフルエンザ・ワクチン接種を行う。最大の原因は ( ③ ) であり、( ⑧ ) は治療の基本である。また、インフルエンザワクチンや肺炎球菌ワクチンによる呼吸器感染症予防も重要である。本疾患の変化は不可逆的であるため、気管支拡張薬 (抗コリン薬、長時間作用型  $\beta_2$  刺激薬) を用いた対症療法が中心である。

医薬品	特徴・副作用
<b>1. <math>\beta_2</math>刺激薬</b> (吸入・テープ) インダカテロール サルメテロール ホルモテロール ツロブテロール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インダカテロール、サルメテロール、ホルモテロールは、長時間作用型 <math>\beta_2</math> 刺激薬 (long-acting beta2-agonist : LABA) である。</li> <li>・中等症以上のCOPDにおいて、長時間作用型 <math>\beta_2</math> 刺激薬 (インダカテロール) は、吸入抗コリン薬とならぶ第一選択薬である。</li> <li>・副作用：頻脈、不安、悪心・嘔吐、振戦、高血糖など。</li> </ul>
<b>2. 抗コリン薬 (吸入)</b> イプラトロピウム グリコピロニウム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・COPDの第一選択薬である。</li> <li>・排尿困難を生じる (⑨ )、(⑩ ) には禁忌である。</li> </ul>

## 以下の症例に関する記述の正誤を答えなさい。

### 症例

68歳男性。労作時の呼吸困難を主訴に来院した。以下の処方による治療を受けることとなった。

交付年月日	平成●●年 ●月 ●日	処方せんの 使用期間	平成●●年●月●日	特に記載のある場合を除き、交付の日を含めて4日以内に保険薬局に提出すること。
処方	(処方1) チオトロピウム臭化物吸入用カプセル 18 $\mu$ g 1回1吸入 (1日1回) 14日分			
	(処方2) カルボシステイン錠 500 mg 1回1錠 (1日3錠) 1日3回毎食後 14日分			
	(処方3) テオフィリン錠 200 mg 1回1錠 (1日2錠) 1日2回朝夕食後 14日分			
	(処方4) サルメテロールキシナホ酸塩、フルチカゾンプロピオン酸エステル 250ディスカス 60吸入用60プリスター1キット 1回1吸入 (1日2回) 1日2回 朝夕 1キット			

1. 本患者にはインフルエンザワクチンは投与禁忌である。
2. 慢性閉塞性肺疾患（COPD）最大の原因は喫煙であり、禁煙が治療の基本である。
3. 重症のCOPDでは左心不全を生じる。
4. 吸入抗コリン薬は前立腺肥大症を合併する患者に積極的に投与される。
5. サルメテロールキシナホ酸塩、フルチカゾンプロピオン酸エステル吸入後は、薬効が減弱する恐れがあるため、うがいをしてはいけないよう指導する。